

## 第2回管理運営計画分科会 要点録

開催日時・場所	令和元年7月29日(月) 18:00~20:30 パルテノン多摩 第一会議室	
参加者・傍聴者	参加委員11名、傍聴者0名	
出席職員	多摩市長、くらしと文化部長、文化施策担当課長、財団職員2名、市アドバイザー	
主な内容	開会	前回要点録の確認について
	次第1	前回の論点整理
	次第2	事業計画について
	次第3	事業計画について
	閉会	管理運営計画の完成形の確認、次回について
議題	主な意見	
次第1 前回の論点整理	■前回の議論を踏まえて、論点を整理した資料を確認した	
次第2 事業計画について ①再開館後に展開する事業について	<p>① 市民参画の在り方がキーであると考えており、新中央図書館や多摩中央公園など周辺施設とかかわりをもちながら、パルテノン多摩に行けば何かやっているという期待感が必要。</p> <p>② 子どもがはだしてもハイハイしていても大丈夫な場所で、自由に遊ばせている傍らで、事業の企画や会議ができるといい。</p> <p>③ パルテノン多摩の音楽事業は特定の団体によるものが多い。パルテノン多摩にはアテナ会員制度があるのだから、多様な団体の音楽に触れられるほうが良いのではないか。</p> <p>④ なぜ敷居が高く感じるかというのは、パルテノン多摩＝ホール、舞台を観て帰るだけの印象が強いのだと思う。ホールだけではない、観て帰るだけではない体験機会をどう考えるかにあると思う。</p> <p>⑤ 休館期間は想像以上にあっという間だと思う。各学校のアウトリーチや展示を通して、体験や学ぶ場をつくり、そこでの体験がワクワクを生み再開館後の期待感につなげていく。</p> <p>⑥ フェスティバルのようなことを、まずはトライアルで行いながら、再開館に向けて定期的に行えたら良い。また、運営参加や企画の募集といったものをたま広報の中で告知をかけるという方法もある。</p> <p>⑦ 展示研究の苦労しているところや音楽事業などの制作など、自分たちのやっていることを裏側から見せる、自己言及的事业も良いと思う。</p>	
②休館中に展開する事業について		
次第3 貸館計画について	<p>① 市民優先は当然とする一方で、収入を増やしたい、ならば市外の人を増やしたいという話になっていったときに、何を優先するかは考えなければいけない。</p> <p>② 改修で税金が使われたのに、さらに利用料が上がるというのは、市民の同意が得られないのではないか。使っている団体の身としては、今のままが良いと思う。</p> <p>③ 減免制度は、公正性を保った上で、対象をしっかりと定義すれば、質の高いものが生まれ、より良いものを市民に提供できることにつながる。</p> <p>④ 市内・市外料金制については、管理基準上に示された、これからのパルテノン多摩の8つの役割がある。この中にある、社会包摂的機能をどう捉えるかによっても変わってくる。</p> <p>⑤ 市内市外よりは減免のほうが良いなど。市内外で分けるのではなく、減免に市内外をいれる。周辺の幼稚園で同じような時期にイベントが重なったときに、市外の人の方が市内の人より優先されるのは違うと思う。</p>	